

消防団長紹介



門真市消防団 団長 寺西 和彦

門真市は大阪府の北東部にあり、市域は東西 4.9 キロメートル、南北 4.3 キロメートルで、面積は 12.30 平方キロメートルです。門真市は、もともと穀倉地帯で、よく知られている河内蓮根が特産物でしたが、宅地造成により、農村地帯から産業都市へと移行、現在は東大阪工業地帯の重要な位置を占めています。

門真市内の指定文化財の 1 つに薫蓋クスがあり、薫蓋クスは三島神社境内にある国指定天然記念物のクスノキで、樹高約 24m、幹周りは 13.1m あり、「大阪みどりの百選」にも選ばれています。

門真市の消防団においては、昭和 38 年（1963 年）の市制施行に伴い、門真市消防団と改称し、団員が「地元の災害は自分たちで守る」という郷土愛のもと、火災出動はもとより放水訓練や啓発活動、地域の防災訓練等での初期消火指導などに積極的に従事しております。

平成 20 年 9 月には万博記念公園お祭り広場において行われた第 52 回大阪府消防操法訓練大会に北河内地区代表として、第二方面隊が小型ポンプ操法の部に出場、日頃の訓練の実力を発揮し優勝の栄冠に輝きました。

平成 31 年 4 月 1 日時点で男女合わせて 211 名の団員で構成され日々地域の安全と安心を守るため活動しています。

寺西団長の経歴を紹介します。寺西団長は、平成 9 年 4 月 1 日に副分団長に任命され、永年の消防団活動を生かし、本務遂行に挺身するかたわら奉職団員のよき相談役、後ろ盾となって団員相互の融和団結を図られました。平成 11 年 4 月に分団長を命ぜられてからは、分隊内をとりまとめ着実に和を広げ、円滑な団運営に尽力されました。また、市内住宅密集地の消防力を強化するため、道路狹隘地区における防災対策の必要性を関係機関に強く要望し、消防施設の整備拡充等に貢献されました。さらに、機械器具の導入による消火技術の高度化などについて団員に説明し、必要性等の普及に努められました。

平成 17 年 12 月 1 日には副団長を任命され、以後本部役員として、団長を補佐し、ひたすら団務に献身する崇高な消防精神をもって、団運営の改善と団員の処遇改善に努められました。平成 30 年 4 月 1 日から消防団長を任命され、複雑多様化する各種災害対応に万全を期すべくさらに消防団員の技術力強化に努められています。

寺西団長の消防団活動において特に記憶に残っている出来事としては、平成 26 年 8 月 11 日午後 1 時 30 分頃、門真市桑才新町で発生した、倉庫火災（鎮火が翌々日の 8 月 13 日午後 3 時 17 分と延べ 3 日間の火災防ぎょ活動を要した）に際し、当時副団長として出動されたことが挙げられます。

当倉庫には、玩具花火やライター用オイル缶などの危険物が流通過程で大量に納入されており、消防隊が現場到着時には、すでにこれらに引火し倉庫内全体が火の海と化していました。

この火災に際し、本市消防団は、火災発生と同時に全員出動命令を下されました。

寺西副団長（当時）は、火災連絡を受けるといち早く現場に到着され、到着分隊に指示し、東側に隣接する作業場の延焼防止にあたらせ、また、猛炎烈火の最前線において、付近一帯の安全確保のため、最重要地点に位置し、周囲の状況を確認し、筒先員に的確な指示を与え有効な消火活動に貢献されました。更に長時間の防ぎょ活動が見込まれたため、市内 20 分隊を適宜入れ替え指示し、団員の安全管理に努められました。このように迅速かつ的確な判断を元に、長時間活動できる体制を継続させたことにより、延焼拡大被害を最小限に食い止めるに至りました。

寺西団長は、このような経験を経て 34 年間培った知識と技術を十分に活用して、消防団活動及び消防団の規律訓練を指導し、身を持って団員の指導育成に努めておられます。

寺西団長は「幾多の災害に対しても常に第一線に立って奮闘し、災害の防止及び被害の軽減に尽くし、今後も自治体消防の発展に貢献していきたい」と決意を述べられています。